

PRESS RELEASE

【イノベーション創発に向けた生成 AI の法人利活用に関する実態調査】

**ビジネスで生成 AI の使用経験なし 8 割以上、
勤務先の生成 AI へのガバナンスへの取り組みは、1 割強に留まる**

- 「イノベーション創出」に繋がるかは「そう思う」と「分からない」で回答がに二分 -

【2023 年 8 月 9 日】

世界 30 カ国でデジタルとエンジニアリングを融合させたソリューションを提供するグローバルリーダーである AKKODiS の日本法人で、企業および組織へエンドツーエンドのコンサルティングサービスを提供する AKKODiS コンサルティング株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：川崎 健一郎、「以下、AKKODiS」）は、このたび、ビジネスパーソン 1,500 名（会社員 950 名、フリーランス 550 名）を対象に「生成 AI の利活用に関する実態調査」を実施いたしました。

AKKODiS は、少子高齢化や労働生産年齢人口の減少等、多岐にわたる課題が累積し「課題先進国」と言われる日本を、イノベーションを支援するエンドツーエンド（E2E）のコンサルティングサービスを起点に『課題解決先進国』へ変革することを目指しています。特に、企業成長の向上や事業変革をもたらす DX 支援に注力する中、ビジネスの生産性向上への寄与が高いとされる生成 AI は、様々な業界・領域での効率化や事業成長を促進するテクノロジーとして期待が高まっています。

そうした背景の下、実際にビジネスパーソンの間では生成 AI の利活用は進んでいるのか、またどのように活用しているのかについて調査を行い、企業における利用実態を明らかにするとともに AKKODiS が企業・組織・地域の DX 支援をより加速させていくためのポイントや課題等を分析いたしました。

【調査結果概要】

- **業務で生成 AI を活用したことのないビジネスパーソンは 80.3%**
- **業務上での生成 AI の活用方法**
 - ◇ 1位：文章のドラフト
 - ◇ 2位：言語翻訳や多言語サポート
 - ◇ 3位：クリエイティブなコンテンツの作成
 - ◇ 4位：マーケットリサーチやトレンド分析
 - ◇ 5位：質問応答システムの構築
 - ◇ 6位：顧客対応やサポート
- **業務で生成 AI を活用したことのないビジネスパーソンのうち、今後活用したいと回答した割合は 22.5%**
- **生成 AI が「イノベーション創出」に繋がるか「分からない」「思わない」と回答した人は約半数**
- **生成 AI のガバナンスが構築されているという回答は、わずか 12.2%**

【調査結果に対するコメント】

今回の調査により、ビジネスパーソンが生成 AI を仕事で活用したことがある人は 2 割未満と、ほとんどのビジネスパーソンは活用していないことがわかりました。利用者が限定的である理由として、AKKODiS コンサルティング株式会社の前田拓宏は次のようにコメントしています。

「現状、生成 AI に関する法的枠組みや運用ポリシーが十分に整備されておらず（ガバナンスに取り組んでいる「12.2%」）、企業内のガバナンス整備への対応が早急に求められています。また、ビジネスパーソンは企業のガバナンスの問題だけではなく、生成 AI の正確性や精度についても懐疑的な部分もあり活用を控える傾向にあると考えられます。どのようにすれば企業が生成 AI を適切に活用することができるかを検証するとともに、コンプライアンスや倫理的な側面からも企業ガバナンスを整える必要があります。」

「生成 AI の活用目的では、『業務効率化』に関する項目が上位を占めました。『イノベーションの創出』に繋がると思うか」という質問については、「思う」43.9%、「分からない」40.6%、「思わない」15.5%と、「思う」と「分からない」の回答が割れる形になりました。現状では、イノベーション創発のような企業の付加価値を生み出す活用までは至ってはいないものの、期待値が高いことが伺えました。」

「今回の調査結果からは、企業が生成 AI の導入に際して、ガバナンスの確立とリスク管理の重要性を認識し、適切な方針や規則を策定する必要があることが示唆されます。弊社では、自社内での生成 AI の活用を推進すると同時に社内システムの制御や社内ルールの策定など、早期よりガバナンスにも取り組んでいます。それらの実績を生かしたコンサルティングサービスの提供を行っており、今後も生成 AI の活用による企業や組織内のイノベーションの創発に寄与していきたいと考えております。」

常務執行役員/テクノロジー統括 兼 Chief Technology Officer 前田 拓宏



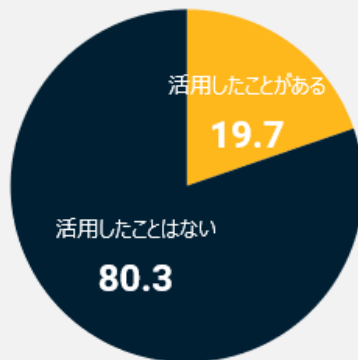
名古屋工業大学大学院工学研究科産業戦略工学修了。株式会社ベンチャーセーフネット（現、AKKODiS コンサルティング株式会社）に機械設計技術者として新卒入社。その後、エンジニア社員のキャリアプランニングおよびキャリアコンサルティングを通じた人財開発に携わる。VUCA の時代を生き抜くテックコンサルタントのキャリア開発をはじめ、自社の強みである「問題解決力×エンジニアリング」を活かし、地方の課題解決に挑む、地方創生プロジェクトなど新規事業も手掛けている。

【調査結果詳細】

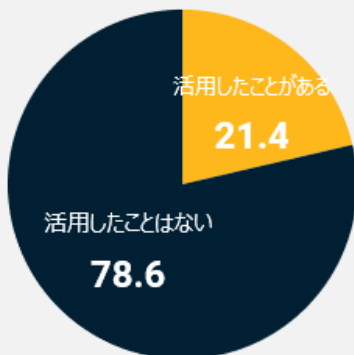
1) ビジネスにおける生成 AI 活用有無：8 割以上が「活用したことがない」

ビジネスパーソン 1,500 名に「ビジネス上での ChatGPT 等の生成 AI の活用」について質問したところ、「活用したことがない」という回答が 80.3%、「活用したことがある」は 19.7%という結果になりました。また、会社員 950 名とフリーランス 550 名別の回答では、会社員の方が 4.5 ポイントフリーランスよりも活用したことがある人が多いことがわかりました。年齢、年代、役職別でも分析したところ、特に傾向は見られませんでした。活用したことがある人が所属する業界は、製造業、情報サービス業、インターネット関連業、金融業・保険業が多いことがわかりました。

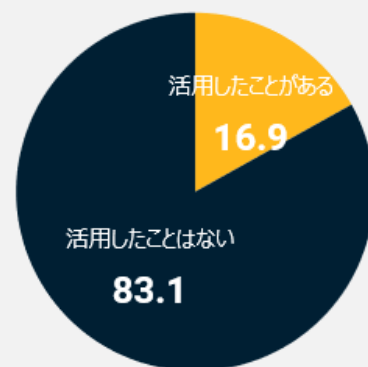
Q. ビジネスで、ChatGPT等の生成AIを活用したことがあるか
(全体/n : 1500)



Q. ビジネスで、ChatGPT等の生成AIを活用したことがあるか
(会社員/n : 950)

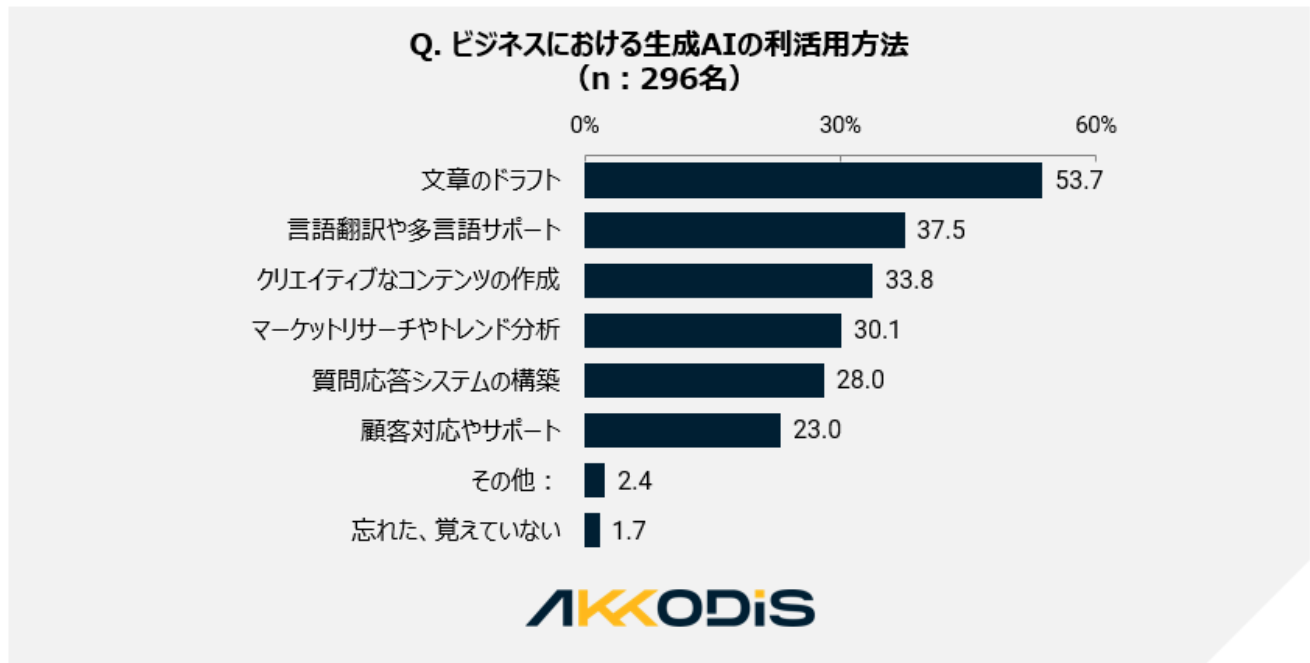


Q. ビジネスで、ChatGPT等の生成AIを活用したことがあるか
(フリーランス/n : 550)



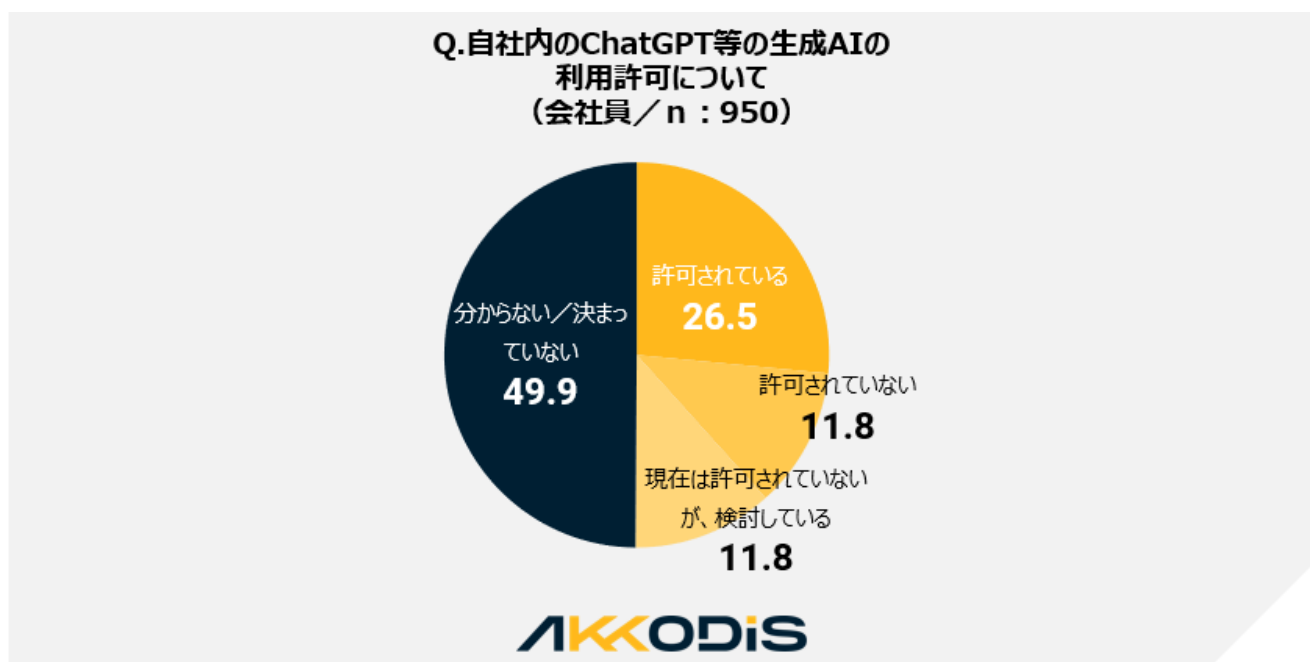
2) ビジネスにおける生成 AI の活用方法：1 位「文章のドラフト」、2 位「言語翻訳や多言語サポート」

前問で「活用したことがある」と回答した 296 名を対象に「生成 AI をどのように活用したか」を質問したところ、「1 位：文章のドラフト」、「2 位：言語翻訳や多言語サポート」、「3 位：クリエイティブなコンテンツの作成」の順に多い結果となりました。生成 AI は、会話や文章の生成の精度が高いとされており、そうした得意な分野での利用が主となっているものの「マーケットリサーチやトレンド分析」、「質問応答システムの構築」も 4 位、5 位に続きました。活用方法に関して、業界、年齢、年代、役職別での傾向は見られませんでした。



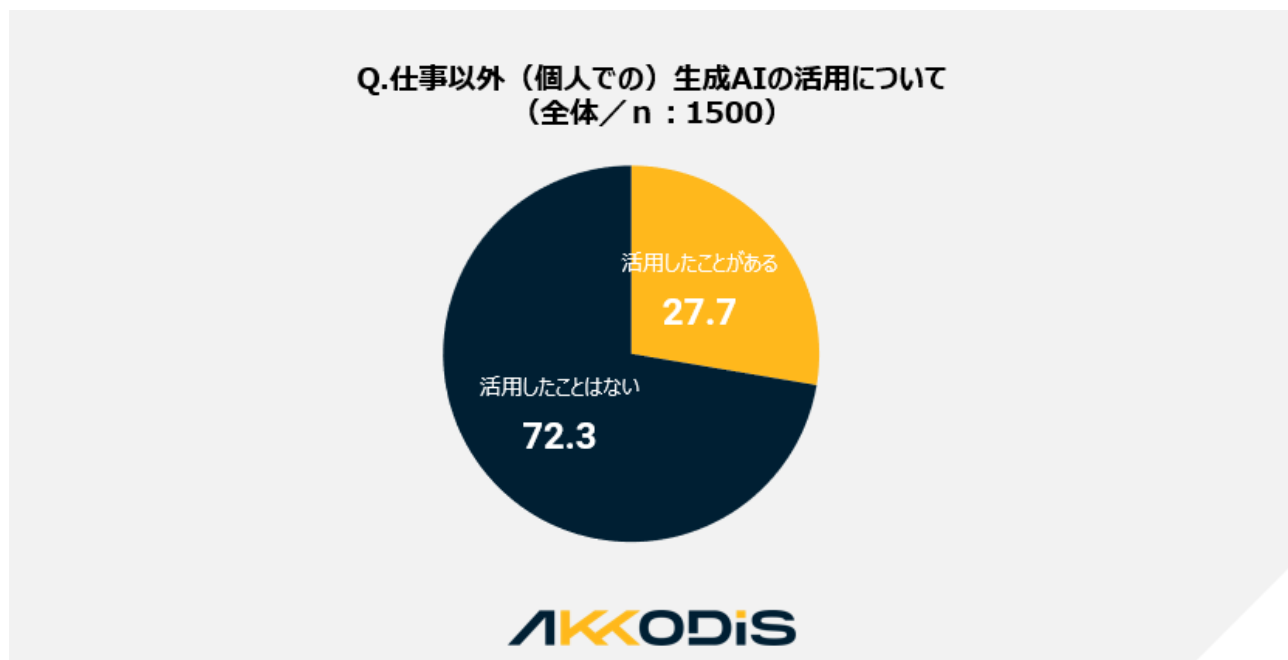
3) 自社内での生成 AI の利用許可状況：25%が「許可されている」。半数は「分からない・決まっていない」

会社員 950 名を対象に勤務先での「生成 AI の利用許可」について質問したところ、「許可されている」と回答した人は 26.5%、「許可されていない」は 11.8%、「現在は許可されていないが、検討している」が 11.8%、「分からない／決まっていない」が 49.9%という結果になりました。



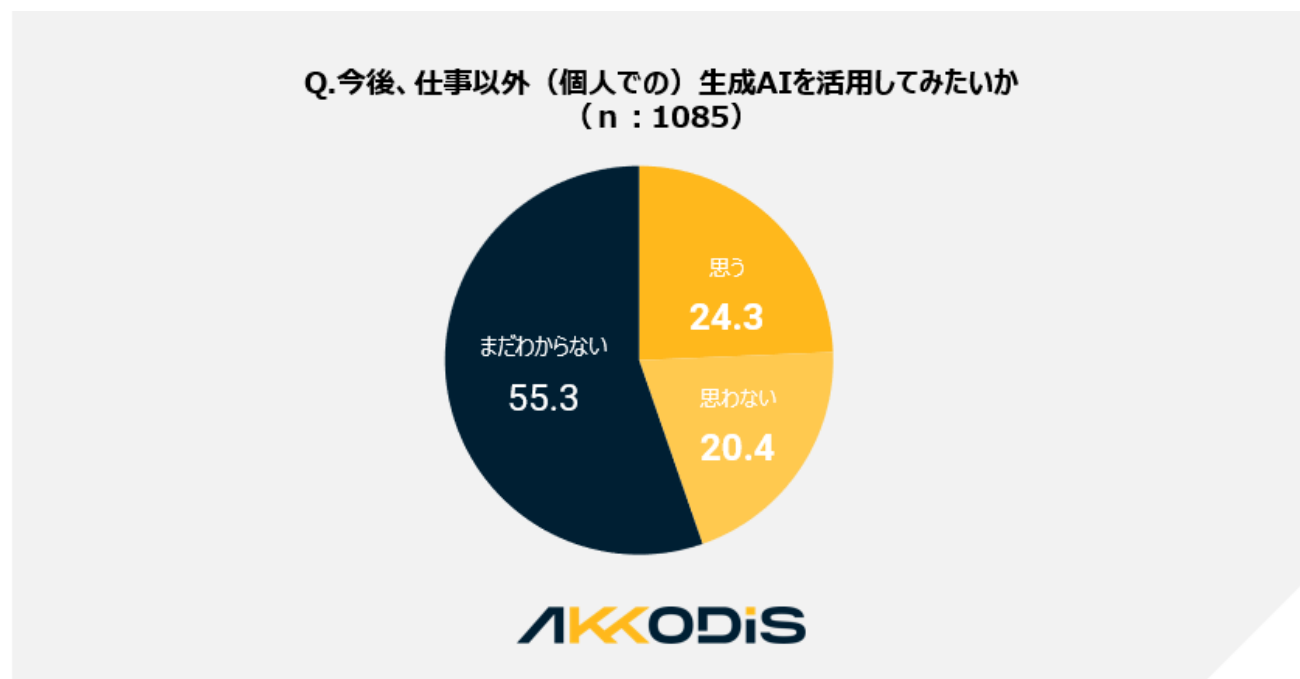
4) 仕事以外での生成 AI の活用有無：7割が「活用したことがない」

ビジネスパーソン 1,500 名を対象に、「仕事以外での生成 AI の活用有無」について質問したところ、「活用したことがある」と回答した人は 27.7%、「活用したことがない」は 72.3%と、業務以外での利用についてもまだ活用が広がってはいないことがわかりました。



5) 今後の仕事以外での生成 AI の活用意向：半数以上が「分からない」

前問で「仕事以外での生成 AI の活用」を「したことがない」と回答した 1,085 名を対象に、「今後は、個人として活用したいか」を聞いたところ、「思う」と回答した人は 24.3%で 4 分の 1 未満にとどまり、「思わない」は 20.4%、「まだ分からない」が 55.3%と現状では、個人の利用においても消極的な意見が多いことがわかりました。



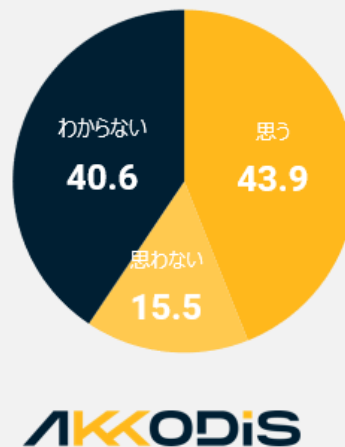
6) 生成 AI の「イノベーション創出※」への期待：「イノベーションの創出に繋がると思う」と「わからない」で回答が割れる

※イノベーションとは：技術革新や新しい市場や新しい資源の開発、新製品・新技術の開発、組織の改革や新制度の導入などを含みます。

ビジネスパーソン 1,500 名を対象に、「生成 AI を活用することで、『イノベーションの創出』に繋がると思うか」について聞いたところ、「思う」と回答した人は 43.9%、「思わない」は 15.5%と、「分からない」が 40.6%という結果になり、「思う」と「分からない」の回答が割れる形になりました。「思う」と回答した人の理由としては下記のような意見がありました。

- ・「定形作業の相当量を簡略化でき、その分余裕となった時間を創造的な業務へシフトすることが出来るから」
- ・「人間の思考では思いつくまで時間のかかるようなアイデアも、瞬時に提示してくれる可能性があるから」
- ・「多くの時間をかけたり、異なる思惑を持った多数の人間の意見に折り合いを付ける面倒をカット出来る利点は大きいから」

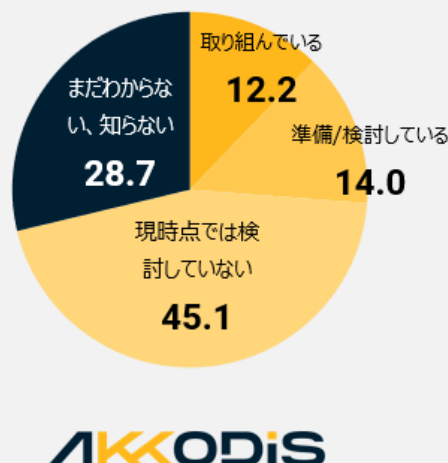
Q. 生成AIを活用することで「イノベーションの創出」に繋がると思うか
(n : 1500)



7) 企業の生成 AI のガバナンス：「取り組んでいる」はわずか約 1 割。約半数が「検討していない」。

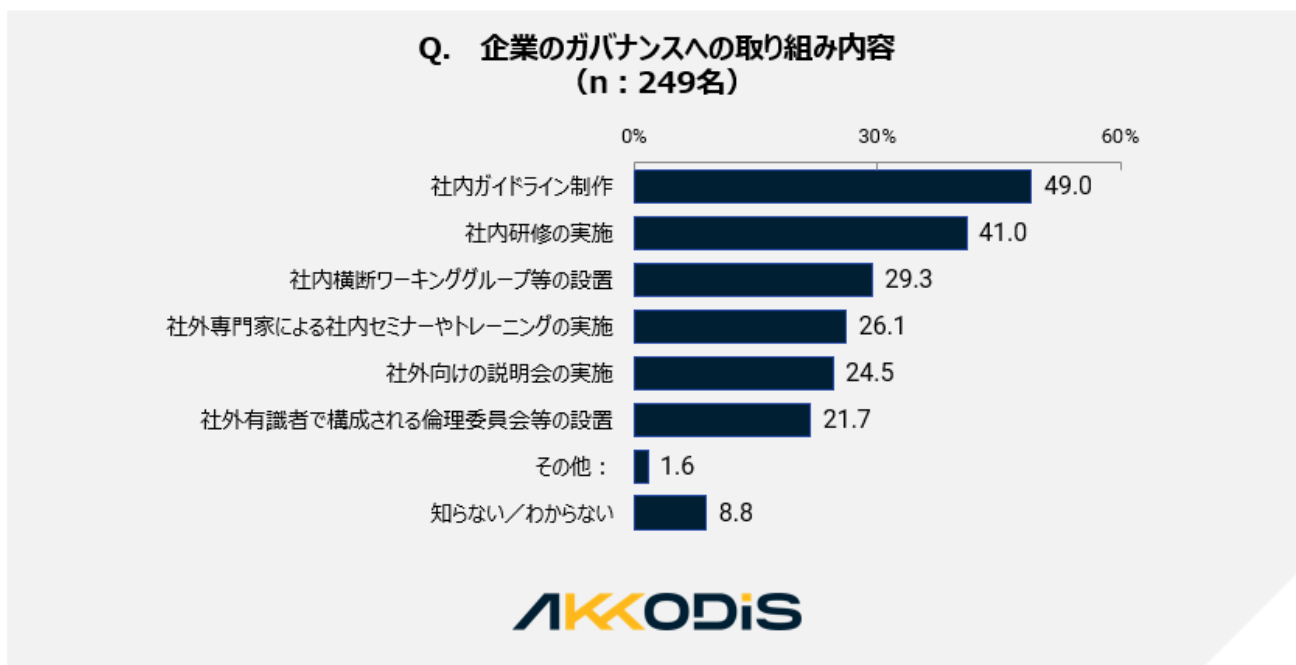
会社員 950 名を対象に、「所属企業での生成 AI のガバナンスへの取り組み」について質問したところ、「取り組んでいる」と回答した人は 12.2%、「準備/検討している」は 14%、「現時点では検討していない」は 45.1%、「まだわからない、知らない」は 28.7%であり、約半数が企業でガバナンス体制を構築する予定が無い、または分からないという結果になりました。

Q. 勤務している企業では生成AIのガバナンスに取り組んでいるか
(n : 950)



8) AI ガバナンスの具体的な取り組み：1 位「社内ガイドライン制作」、2 位「社内研修の実施」

前問で、「所属企業では生成 AI のガバナンスに取り組んでいる」、または「準備/検討している」と回答した 249 名を対象に「具体的にはどのような取り組みを行っているか」を聞きました。「1 位：社内ガイドライン制作」、「2 位：社内研修の実施」、「3 位：社内横断ワーキンググループ等の設置」の順に多い、結果になりました。さらに、取り組みが進んでいる企業では「4 位：社外専門家による社内セミナーやトレーニングの実施」や「6 位：社外有識者で構成される倫理委員会等の設置」といった専門的な知識の習得やガバナンス体制に着手していることも分かりました。



【調査概要】

- ・調査対象 : 正社員・フリーランス (20~50 代)
- ・サンプル数 : 1,500 名 (正社員 : 950 名、フリーランス : 550 名)
- ・調査時期 : 2023 年 6 月 13 日~16 日
- ・調査方法 : インターネット調査
- ・調査会社 : 楽天インサイト株式会社

※回答結果はパーセント表示を行っており、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、各回答の合計が 100%にならない場合があります。

【AKKODiS コンサルティング株式会社について】

AKKODiS は、コネクテッドデータの力を活用し、デジタルとエンジニアリングを融合させたソリューションを世界 30 カ国で提供するグローバルリーダーです。AKKODiS コンサルティング株式会社は、「日本を、課題解決先進国に。」というビジョンを掲げ、日本において事業を展開しています。戦略、プロジェクトマネジメント、テクノロジー、アカデミー等、多岐にわたる領域のコンサルタントを 9,500 名以上擁し、企業および組織のイノベーションを支援するエンドツーエンドのコンサルティングサービスを提供しています。

上流領域のコンサルティングから、システム開発、教育、現場の保守・運用までを包括した、Consulting、Solution、Academy、Talent の 4 つのサービスを提供することで、組織の変革を伴走しながら支援しています。

【AKKODiS ウェブサイト】 <https://www.akkodis.co.jp/>

【AKKODiS コンサルティングに関するお問い合わせ先】

AKKODiS コンサルティング 広報

[お問い合わせフォーム](#)